

# J A全中 Monthly Report

併せてJ A全中ホームページ (<http://www.zenchu-ja.or.jp/>) もご覧ください。

1月

## 中家会長 1月定例会見 会長からのメッセージ

中家会長は1月10日、理事会終了後、平成31年最初の定例会見を行いました。会見の冒頭、今年の漢字1字を直筆した色紙を披露しました。

「『節目』の『節』です。4月末、天皇陛下が退位され、5月1日、皇太子さまが新天皇に即位されます。日本にとって、大きな時代の節目になります。もちろんJ Aグループ、農業にとっても大きな『節目』がいくつかあります」と語りました。

3月7日は「第28回J A全国大会」が開催されます。今後3年間のJ Aグループの取り組み方針について

決定します。5月末に「農協改革集中推進期間」の期限を迎えますが、引き続き、組合員から必要とされるJ Aグループを目指して、J Aの自己改革を進めてまいります。

9月30日には、J A全中が一般社団法人に移行し、65年の歴史に農協法上の組織としては幕を閉じますが、組織が変わっても代表、総合調整などのJ A全中の機能を十分に果たし、J Aグループの舵取りの役割を果たす所存です。

「食料・農業・農村基本計画」の見直しの議論も始まります。これま

でも食料安全保障の確立の重要性を述べてきましたが、国民の皆さまに理解していただくことが不可欠です。農業者だけでなく、消費者など幅広い方々と議論してまいります。

世界的に見ても、国連の「家族農業の10年」が始まります。家族農業は、持続可能な農業のためにも不可欠な存在でSDGsでも食料の安定確保の担い手として位置付けられています。竹は節目、節目で成長していきます。われわれも「節目」を前向きに生かして、組織も人も成長させてまいります。

会長メッセージはJ Aグループのウェブサイト (<http://org.ja-group.jp/message>) に掲載しています。

## 林修先生 新聞、テレビでJ Aの役割を解説

林修先生が新聞、テレビを介して、J Aや協同組合の役割について分かりやすく解説する企画を12月から3月にかけて展開しています。

『朝日新聞』に「林修の特別授業」を12月22日（第11回）と1月26日（第12回）に掲載しました。第11回は、日本有数の人気直売所のJ Aおちいまばり（愛媛県）の「さいさいきて屋」を取り上げました。第12回は平成30年7月豪雨災害の被災地に移動金融店舗を派遣したJ A安芸（広島県）を紹介しました。



朝日新聞と連動した

BS朝日の「林先生が世の中のギモンを徹底解説『よくわかる! なっとく授業』」を3月（予定）に放送します。また、2月3日、小学生と保護者100組に向けて、林先生が農業やJ Aについて解説する「公開セミナー」を都内で開催します。

## 大学生の研究プレゼン大会に協賛 経済誌で特集を掲載

J A全中は、食や農業、地域に関する大学生のプレゼン大会「第2回アグリカルチャーコンペティション」に協賛し、『週刊東洋経済』1月26日号に特集を掲載しました。

全国9大学から参加した27チームが企業や大学と連携するなどして、調査研究を行ってきた成果を発表しました。誌面では、予選を突破した4チームを紹介しながら、最優秀賞を受賞した日大商学部秋川卓也ゼミの学生の声などを紹介しました。詳

細は、J Aグループのウェブサイトをご覧ください。

<https://agri.ja-group.jp/agcom/>

## 荒川静香さん 東日本大震災で被災した産地の軌跡を掲載

『週刊新潮別冊・FOCUS』「さよなら平成」に、プロフィギュアスケーターの荒川静香さんがJ Aグループと連携して、東日本大震災の被災地の産地（28地域）を訪ねた「ステイ・ポジティブ」の7年間の軌跡と、J Aグループの震災復興に向けた取り組みを紹介した「東日本の農業復興へ力強く」を掲載しました。

